

ラン科植物分類雑記 (1)

橋本 保*

HASHIMOTO, Tamotsu: Taxonomic Miscellanies of Orchidaceous Plants (1)

筑波実験植物園には現在約 100 属 230 種の野生ランが栽培されており、この数は園職員による収集および園外の協力者の寄贈によって今後さらに増加するものと思われる。これらを栽培し、研究する過程で得られた分類学上の知見をここに記したい。

1) 日本産 *Acanthephippium* Bl. タイワンショウキラン属

この属はスリランカからフィジーにいたる熱帯および亜熱帯の林内に地生し、既知の北限は屋久島である。Seidenfaden (1971 & 1975) は 13 種を認めるというが、種名のすべてを明らかにしてはいない。この属は *Phaius* Lour. カクラン属に近縁と思われるが、花は短い軸に着き、萼片が鐘筒形になって寄り添い、その内の 2 個の側萼片は基部で互いに癒合して大きな *mentum* を形成するので花があれば他属とすぐ区別がつく。また両側萼癒合部の内側に沿って、あたかも唇弁の *hypochile* のように伸長した *column-foot* があって、唇弁との境が折れ曲っていることはラン科でも際立った特徴である。しかし種間の違いは、採集された標本の数が少なく、生品を調べる機会も少なかったため判然としない場合が多かった。各国の植物誌等を見ても稀品と記してある場合が多い。

日本国土内にこの属を産することが確かめられたのは比較的新しく、根本 (1936) が編記した 3 種はすべて台湾を産地としたものであった。学術誌に初めて発表されたのは、おそらく正宗 (1964) の *A. pictum* Fukuyama エンレイショウキランで、西表島からのものであった。この学名は後に記すように研究者によって、あるいは同一研究者であっても時期によって異なった取扱いを受けている。2 番目の国産種とされたのは前川 (1975) によって *A. unguiculatum* (Hayata) Fukuyama タイワンアオイランとされたもので、屋久島産のものであった。しかしこれはその後出版された佐竹他編「日本の野生植物、草本 1 (1982)」や北川改訂・大井「新日本植物誌、顕花編 (1983)」には掲載されていない。

今まで色々な植物関係の出版物によって報告された日本国内における同属の分布としては、エンレイショウキラン (学名は 3 通りが使われてきたが和名は常にこの名であった) が屋久島、奄美大島、徳之島、沖縄島、久米島、石垣島、西表島、与那国島から知られ、タイワンアオイランは屋久島だけの産とされている。なお前者は台湾・蘭島 (紅頭嶼) から記載された *A. pictum* Fukuyama に与えられた和名で、Liu & Su (1978) は日本以外の産地はここだけとしている。また後者は台湾・台北で栽培されていたものを基に記載された *Tainia unguiculata* Hayata に与えられた和名で、福山 (1934) によって *Acanthephippium* に正され、前川 (1975) の報告以前は台湾特産 (全島の低地林に広く分布することが知られていた) と思われていた。そこでこれらのものを再検討した結果、後記の検索表によってそれぞれの種類の特徴を要約した。すなわちエンレイショウキランといわれてきた日本の植物の中にはタイワンショウキランを含んでいたことになるので、ここで区別点を明らかにしたわけだが、既知の産地と両種類の関係は出典が必ずしも標本に基づいたものではないので確め得なかった。しかし中島 (1971a) によって公表された写真 pl. V は、花被片内側の赤い斑

* 国立科学博物館 筑波実験植物園 Tsukuba Botanical Garden, National Science Museum, Ibaraki Prefecture 305.

点が認められるのと同時に、花全体の色合いが台湾シヨウキランの特徴を示しているため、これが沖縄県に産することが解る。神田 (1984) の写真 nos. 118 & 119 は更に鮮明で、花のほか葉脈の数の特徴から台湾シヨウキランであることが判定できるが、被写体の産地は絶滅を防ぐための配慮から沖縄県と記してあるだけである。いっぽう筑波実験植物園で栽培している石垣島産の個体 (TBG acc. 54521) はエンレイシヨウキランであった。正宗 (1969) の図 (p. 238) は線画で、花色は解らないが葉脈数はエンレイシヨウキランに一致する。産地は西表島と台湾紅頭嶼と記載にあるが、図の植物の産地は明示していない。

台湾アオイランは既に記したように国内では屋久島からしか知られていないことと、検索表に記したように、他の2種類とは明瞭な形態の差があるため、および国内の文献が少ないため和名上の混乱は今のところ起っていない。線画で前川 (1975, p. 255), カラー写真で神田 (1977, nos. 234 & 235), 橋本・神田 (1981, p. 148), イズミ (1982, p. 218) などにより公にされている。

次にこれら3種類の適切な学名を検討した。中島 (1971b) によって一時エンレイシヨウキラン (実体は台湾シヨウキラン) に適用された *A. sylhetense* Lindl. は後に台湾の Ying (1977, エンレイシヨウキランと台湾シヨウキランを同品とみなし, かつフィリピン産の *A. mantinianum* Linden & Cogn. もその異名とした) や Liu & Su (1978, *A. yamamotoi* Hayata 台湾シヨウキランだけを異名とした) に採用された。Lindley の基準標本を IDC Microfische (標本上に花の図も描いてある) で見ると、原記載で触れてない葉脈や花被にある斑紋の様子が判り、台湾シヨウキランがこれであると判断した。エンレイシヨウキランは葉脈数が少ないこと、花被の赤色部が濃くて広面積に及び、その結果からか斑紋は花を分解しない限り認め難く、分解して初めて内側に多少かすれたようにみられ、花被内側先端付近の赤色部には台湾シヨウキランに見られない黄色 (花の地色) の條が脈に沿ってあること、日本産のもので比べると包葉の赤色が少ない点などで区別できるが種を分けるほどの形質ではないと考え、ここで台湾シヨウキランと変種関係に取扱うことにした。フィリピンにはこれまで同属は1種しか報告されておらず、標本は見えないが栽培家が採集品を開花させたのを見たことがある。おそらく *A. mantinianum* であるが、これは花が上下に扁平で、全体として縦に角張って見え、同種とは思えなかったためこれら2品とは別の種類と考えたい。なおインドシナ半島から報告されている "*A. sylhetense*" (Gagnepain 1934, p. 334 & f. 30-1; Seidenfaden & Smitinand 1961, p. 327 & 1965, f. 791) は台湾シヨウキランに似ているように思えるが、唇弁の中央裂片の形と中央隆起の形がインド産や日本産のものと合致しないので、ここではいちおう別品と考え、除外しておくことにした。

台湾アオイランは Ying (1977) 説の *A. striatum* Lindl. を採りたい。これも IDC Microfische による基準標本の写真と図や、南アジアを対象にした諸文献に当たってみた結果、偽鱗茎の1正常葉性、花色の特徴、メンタムの形、唇弁の中央隆起の性質など他の同属の種とは明瞭に区別できる特徴を *A. unguiculatum* (Hayata) Fukuyama と共有し、両者を別の分類群として取扱わねばならない形質は見出し得なかったからである。

日本産 *Acanthephippium* Bl. 台湾シヨウキラン属の検索表

1. 偽鱗茎には2葉以上がある。花は白～黄色地で、紅紫色の縦線は無く、メンタムは後半部がほぼ半球形となる。唇弁中央には3～5本の欠刻状隆起がある。
 2. 成葉はふつう9本の大脈がある。花被片内側の先端付近に濃赤色の斑紋がある……………1a. *A. sylhetense* var. *sylhetense* 台湾シヨウキラン
 2. 成葉はふつう5本の大脈がある。花被片の先約半分が濃赤色を帯び、その内側は赤色が抜けた縦線がある……………1b. *A. sylhetense* var. *pictum* エンレイシヨウキラン

1. 偽鱗茎は1葉を頂生する。花は白色地に紅紫色の縦線があり、メンタムは後部の先が細くて距状となる。唇弁の中央隆起は1本で欠刻は無い 2. *A. striatum* タイワンアオイラン

これらの事実を検討する契機を与えられ、かつ石垣島産エンレイシヨウウキランの生品 (TBG acc. 54521) を持参され、色々と御教示をいただいた羽根井良江氏に御礼申し上げる。なおこの生品の生育地は島袋常夫・ときわ御夫妻によって見つけられ、両氏の案内で現地に行かれた神田淳氏が羽根井氏に届けて下さったものである。

1) The genus *Acanthephippium* Bl. in Japan

1. *Acanthephippium sylhetense* Lindl., Gen. Sp. Orch. Pl. 177, 1830.

1a. Var. *sylhetense*

タイワンシヨウウキラン

A. sylhetense Lindl., Gen. Sp. Orch. Pl. 177, 1830; Hook. f., Fl. Brit. Ind. 5: 815, 1890; Nackejima, Enum. Orch. Ryukyus 2: 114, 1971, p. p.; Ying, Col. Ill. Indig. Orch. Taiwan 1: 417, 1977, p. min. p.; Liu & Su in Li & al., Fl. Taiwan 5: 867, 1978.

A. yamamotoi Hayata, Icon. Pl. Form. 6: 73, 1916; Masamune in J. Geobot. 14: xxi, 1966; Nackejima, Enum. Orch. Ryukyus 1: 47, 1971, excl. syn.; Hatusima, Fl. Ryukyus, ad. & cor. 913, 1975, excl. syn.; Satomi in Satake & al., Wild Fl. Jap., Herb. Pl. 1: 222, 1982, excl. syn.

1b. Var. *pictum* (Fukuyama) Hashimoto, comb. & stat. nov. エンレイシヨウウキラン

A. pictum Fukuyama in Bot. Mag. Tokyo 49: 666, 1935; Masamune in Sci. Rep. Kanazawa Univ. 9: 135, 1964; Hatusima & Amano, Fl. Okinawa, rev. ed. 163, 1967, p. p.; Masamune, Col. Ill. Fl. Nippon 8: 238, 1969; Garay & Sweet, Orch. South. Ryukyus Is. 130, 1974, p. p.; Liu & Su in Li & al., Fl. Taiwan 5: 867, 1978.

"*A. sylhetense* Lindl." Nackejima, Enum. Orch. Ryukyus 2: 114, 1971, p. p.; Ying, Col. Ill. Indig. Orch. Taiwan 1: 417, 1977, p. maj. p.

2. *Acanthephippium striatum* Lindl. in Bot. Reg. 24: Misc. 41, 1838; '*Acanthephippium*'; Hook. f., Fl. Brit. Ind. 5: 816, 1890; Seidenfaden & Smitinand, Orch. Thai. 5: 792, 1965; Ying, Col. Ill. Indig. Orch. Taiwan 1: 417, 1977. タイワンアオイラン

Tainia unguiculata Hayata, Icon. Pl. Form. 4: 61, 1914.

Acanthephippium unguiculatum (Hayata) Fukuyama in Bot. Mag. Tokyo 48: 301, 1934; F. Maekawa in J. Jap. Bot. 50: 256, 1975; Liu & Su in Li & al., Fl. Taiwan 5: 868, 1978.

Key to Japanese taxa of *Acanthephippium* Bl.

1. Pseudobulb with 2 or more leaves; flower yellowish without reddish-violet veins; mentum with a subglobose end; lip with 3 to 5 longitudinal ridges
 2. Leaves with about 9 major veins; flower with reddish spots at apical inside
 - 1a. *A. sylhetense* var. *sylhetense*
 2. Leaves with 3 to 5 major veins; flower suffused with red at the anterior half, striated with yellow or white veins at apical inside ..1b. *A. sylhetense* var. *pictum*
1. Pseudobulb with solitary leaf; flower whitish, striated with longitudinal reddish-violet veins; mentum with a slender end (a spur like structure); lip with 1 longitudinal

ridge2. *A. striatum*

引用文献

- Fukuyama, N., 1934. *Studia orchidacearum japonicarum* 1. Bot. Mag. Tokyo 48: 297-308.
 ———, 1935. Ditto 6. Bot. Mag. Tokyo 49: 663-670.
- Gagnepain, F., 1934. *Acanthophippium* Bl., 333-334, figs. 29 & 30. In Lecomte, Fl. gén. l'Indo-Chine 6. Masson, Paris.
- Garay, A. & H. Sweet, 1974. Orchids of southern Ryukyu Islands. i-xii+1-180. Bot. Mus., Harvard Univ., Cambridge-Mass.
- 橋本 保・神田 淳, 1981. 原色野生ラン. 1-246. 家の光協会, 東京.
- 初島佳彦, 1975. 琉球植物誌 (追加・訂正). 1-1002. 沖縄生物教育研究会, 那覇.
- , 天野鉄夫, 1967. 改訂沖縄植物目録. 1-218, 沖縄生物教育研究会, 那覇.
- Hayata, B., 1914. *Icones plantarum formosanarum* 4. i-xi+1-264+pls. 1-25. Bureau of Prod. Industr., Govt. of Formosa, Taihoku (Taipei).
- , 1916. Ditto 6. 1-168+pls. 1-20. Bureau of Prod. Industr., Govt. of Formosa, Taihoku.
- Hooker, J., 1890. The flora of British India 5-16, 687-910. L. Reeve, London.
- イブミエイコ・月刊さつき社, 1982. 野生ラン事典. 1-300. 月刊さつき社, 鹿沼.
- 神田 淳, 1977. 日本の野生ラン. 1-194. 誠文堂新光社, 東京.
- , 1984. 野生ラン巡遊. 1-178. 誠文堂新光社, 東京.
- Lindley, J., 1830-1840. The genera and species of orchidaceous plants. i-xvii+1-553. London.
- , 1938. *Acanthophippium striatum*, Bot. Reg. 24, Misc. 41-42.
- Liu, T.-S. & H.-J. Su, 1978. Orchidaceae, 859-1137. In Li, H.-L. & al. (ed.), Flora of Taiwan 5. Epoch Publ., Taipei.
- 前川文夫, 1975. 旧日本に新しい属 *Acanthophippium* の発見. 植物研究雑誌 5: 255-256.
- Masamune, G., 1964. Enumeratio tracheophytarum ryukyu insularum 10. Sci. Rep. Kanazawa Univ. 9: 119-154+1 pl.
- 中島邦雄, 1971a. 琉球産ラン科植物目録 1. i-v+I-XXII+1-60. 琉球の野生ラン刊行会, 那覇.
- , 1971b. Ditto 2. i-iii+XXXIII-LXXX+62-128. 琉球の野生ラン刊行会, 那覇.
- , 1972. 台湾, 琉球, 小笠原および日本南部のラン科植物の分類学的研究 (予報) 2. 沖縄生物学会誌 9: 34-45.
- 根本莞爾, 1936. 日本植物総覧補遺. 1-1436. 春陽堂, 東京.
- 里見信生, 1982. ラン科, 187-235+pls. 170-208. 佐竹義輔他 (編著), 日本の野生植物, 草本 I 単子葉植物. 平凡社, 東京.
- Seidenfaden, G., 1971. Contributions to the orchid flora of Thailand 3. Bot. Tidsskr. 66: 303-356.
- , 1975. Contribution to a revision of the orchid flora of Cambodia, Laos and Vietnam. 1-117. Author's publ., Fredensborg.
- & T. Smitinand, 1961. The orchids of Thailand 3. 327-516+pls. 14-21. The Siam Soc., Bangkok.
- & ——, 1965. Ditto 4(2). 647-870+pls. 30-41. The Siam Soc., Bangkok.
- Ying, S.-S., 1977. Coloured illustrations of indigenous orchids of Taiwan Vol. 1. i-iv+1-565. Dept. of Forestry - National Taiwan Univ.